

# 事務事業評価表

## 1. 基本事項

作成日 令和06年06月21日(金)

事務事業		消防活動事務		担当課	花園消防課	担当係	花園消防署	管理番号	61411
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり	根拠法令 個別計画等	・消防法 ・消防組織法 ・消防力の整備指針				
	小項目	2	消防・救急体制の充実						
	主要プロジェクト								
事業概要		複雑多様化する各種災害に対して、消防職員の訓練、研修等を実施し技術、知識の向上を図る。 各種資器材の点検、整備により消防活動に必要な資器材を常時使用可能な体制に整え迅速、的確な消防活動を遂行する。							
目的 ※何のために		市民の生命、身体及び財産を各種災害から保護するとともに、被害の軽減を図る。							
対象 ※誰・何を対象に		市民の生命、身体及び財産。							
手段 ※どのように		複雑多様化する災害に対応するため、訓練、研修を実施するとともに、資器材の点検、整備を行い災害等による被害の軽減を図る。							
成果 ※何を求めるか		業務の総合的な強化、充実を図り、迅速に各種災害活動を行い損害を最小限に留め、市民の生命、身体及び財産を守る。							
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他( )							
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)	
本事業の 主な業務		・水火災の災害対応業務				・事業所等の消防訓練指導			
		・消防訓練の立案、調整、実施に関する業務				・各種報告書、統計及び即報の作成事務			
		・警防調査及び水利の点検に関する業務				・			
		・消防資器材の維持管理業務				・			
		・火災原因及び損害の調査				・			
		・り災証明発行事務				・			

## 2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画							
事業費	予算(現額)	0	0	0	0		
	決算額	0	0	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
		一般財源	0	0	0		
人件費	従事職員数(人)	0.10	0.10		0.00		
	人件費相当試算※	786,956.00	801,017.00		0.00		
総事業費試算		786,956	801,017	0	0		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名	目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
活動指標 1	火災出場件数（暦年）	目標値	件						
		実績値		13.00	32.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			火災出場件数であり、目標値の設定に値しない。/出場件数					
	実績値の算出式								
活動指標 2	訓練・研修回数	目標値	回	14.00	14.00				
		実績値		14.00	14.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			年間訓練計画及び各訓練計画に基づき目標値を設定。 / 実施回数					
	実績値の算出式								
活動指標 3	資器材点検実施率	目標値	%	100.00	100.00				
		実績値		100.00	100.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			100%の資器材点検を目標とする。 / 実施日/365日×100					
	実績値の算出式								
成果指標 1	資器材常時使用可能率	目標値	%	100.00	100.00				
		実績値		100.00	100.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			車載されている全資器材の常時使用可能率。 / 使用可能数/全資器材×100					
	実績値の算出式								
成果指標 2	火災による死傷者数（暦年）	目標値	人						
		実績値		4.00	11.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			火災死傷者数であり、目標値の設定には値しない。 / 火災による年間死傷者数					
	実績値の算出式								
成果指標 3	火災1件当たりの焼損棟数（暦年）	目標値	棟	1.56	1.54				
		実績値		1.09	1.81				
	目標値の算定根拠/実績値の出所			前年の埼玉県 の値を目標とする。 / 年間焼損棟数合計/年間建物火災					
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。  
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	火災出場件数は大幅に増加したが、そのことにより危機管理意識が高まり年間訓練計画に基づいた訓練及び研修において、災害現場をイメージした効果的な訓練及び研修を実施することができた。また、日常的に資器材の点検を実施したことで、災害等で異常なく使用することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	資器材点検を毎日実施することで、災害時以外においても資器材の常時使用可能率100%を達成し、より効率的に資器材を使用できるように検証しながら有効活用することができた。 火災1件当たりの焼損棟数が増加したのは火災件数の増加に伴うものである。目標値を上回っていることから、訓練を行い目標値を下回るように努める。
			評価者 消防係長 佐々木勝・小池喬

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	立入検査等でiPadを活用し、ペーパーレス化や立入検査の状況をリアルタイムで署に配信するなど、立入検査に向向していない職員にも情報共有することができ、効果的な立入検査を実施することができた。 火災に関する各種手続きにおいて、り災者等の負担を軽減するため窓口から電子申請への移行を進めたが課題が残っているため、さらなる検討が必要である。
			評価者 消防係長 佐々木勝・小池喬

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和4年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	花園消防署管内は、管内が荒川によって隔てられているほか、山間部も管轄する地域特性がある。後期基本計画においても「出場から放水開始までの時間」を指標としており、今後も継続して指標を達成するためには地域特性を考慮した最適なルートと消防水利の選定が必須である。そのために、これまで実施していなかった管轄外や山間部の走行危険箇所に対する警防調査を実施し、調査結果を指令端末へ反映させる。
達成状況及び その効果	山間部における警防調査と操縦訓練を兼ねて実施することで、危険箇所や車両特性についても把握することができた。また、高さ制限やポール規制についても再調査を行い、最適なルートや消防水利の選定に欠かすことのできない地域特性を改めて認識することができた。また、調査結果を全署が確認できるように情報共有を図れた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	消防活動事務	担当課	花園消防課	担当係	花園消防署	管理番号	61411
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input checked="" type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
		消防車の出場から放水開始までの平均時間は、消防署から火災発生場所までの距離に大きな影響を受けるため、合理的経路で現場到着するための地水利の把握が必要不可欠なほか、深谷式消防戦術に基づく訓練の継続が必要である。また、消防組織再編基本方針に基づく経営資源の再配置と深谷消防署と花園消防署の本事務事業の統合によって業務の効率化を図る必要がある。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	深谷消防課長 小林 晃昌				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和6年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	
令和7年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	

8. 評価指標グラフ

